

# JET 活躍の現場から



● 村の国際化を支える CIR ——— 青森県六ヶ所村

## 少数招致国の CIR (国際交流員)

六ヶ所村は本州の最北端に位置し、多彩な表情の湖沼群を有する豊かな自然と原子燃料サイクル・核融合エネルギー施設の先進技術が調和する美しい場所です。

1999年に青森県より紹介のあった韓国・江原道襄陽(ヤンヤン)郡との交流が開始され、より密接な関係を築きたいとの想いから、韓国人の国際交流員の必要性が高まり、2000年よりJETプログラムのCIRを招致しました。また、1992年に友好都市協定を締結していたドイツ・メクレンブルク=フォアポンメルン州ヴァーレン市との交流をさらに促進するため、2005年にドイツのCIRを招致しました。

これにより、少数招致国のCIR2名という体制が確立され、各友好都市への訪問の際は、母国語のほか英語での通訳も担い、文化・スポーツでの交流を軸に、友好の懸け橋として、10年以上にわたり、その知識と技能を存分に発揮しています。

## 地域に根ざした交流を目指して

村には先進エネルギーの研究のため海外から来た多くの研究者とその家族が居住しています。彼らが住み良いと感じる環境づくりもCIRの業務の一つです。

勤務先である国際教育研修センターにおいて、毎週語学教室(独語・韓国語・仏語・英語・日本語の5か国語)を開講し、住民と外国人のニーズに沿いながら、月1回の国際交流イベントや料理教室・学校訪問など地域に密着したイベントを自ら企画立案し、積極的に実施しています。加えて、年に1度の異文化交流フェアでは、在住外国人を集めて母国の文化紹介ブースを出展してもらうなど、自発的かつ能動的に新しい挑戦を続けています。

また、他部署における翻訳業務も担当しており、村勢要覧の翻訳や役場窓口業務に関わるマニュアルの作成などにも携わり、村の国際化に大きく貢献しています。

今後は、村内で地区ごとに開催される祭りや催し物への参加も増やし、地域の輪の中により一層溶け込み草の根交流を進めていきます。



韓国・襄陽郡への訪問 前列右端がCIR (2017年10月)



在住外国人を講師に招き料理教室を開催 画面左側がドイツCIR (2017年2月)



国際理解教育を小学校で開催